

◆ 法人会員紹介ー1

■ 株式会社ナカサンドパートナーズ

1977年仲佐写真事務所設立、1989年 株式会社ナカサンドパートナーズ設立以来、弊社は建築・インテリアのクリエイティブワークの進化とともに、スキルアップを目指し、努力しています。現在、総勢30名のスタッフとともに、さらなる飛躍を目指し、機動力と瞬発力を活かしながら海外にも活動の場を広げています。

常に時代の変化とともに新しい価値観を創造しながら、皆様の潜在的な欲求に答えることを考えています。ビジュアルコミュニケーションをより深め、記録性と創造性を磨くために弊社に是非お声かけ下さい。

株式会社ナカサンドパートナーズ

担当 小嶋

<http://www.nacasa.co.jp>

partners@nacasa.co.jp

東京都目黒区上目黒2-18-4

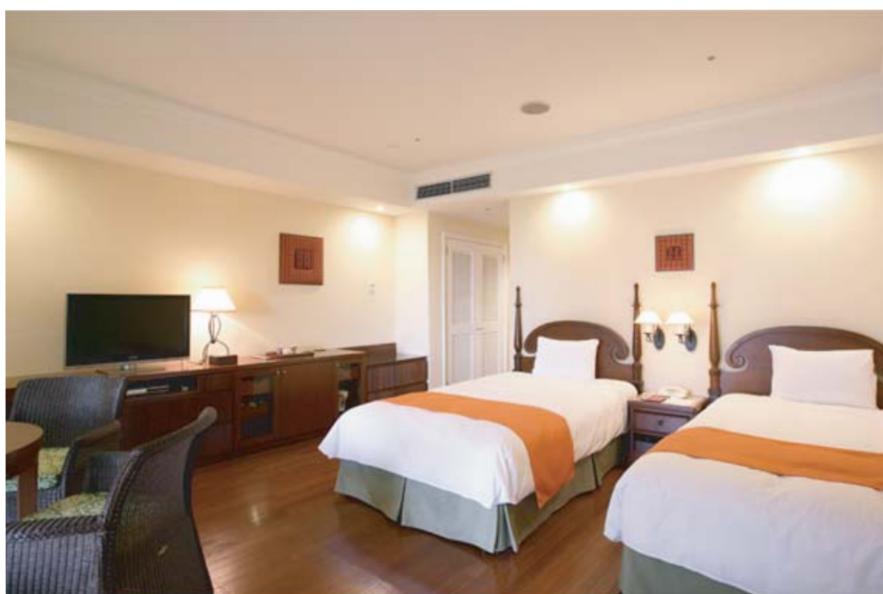
TEL 03-5722-7757

FAX 03-5722-0909



志摩観光ホテル/設計 Naoko Horii (HBA)

■ ナカタケ株式会社



ナカタケ株式会社

担当 中根 正雄

<http://www.nakatake.jp>

nakane@nakatake.jp

〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-22-10 深谷ビル4F

TEL 03-5625-3545 FAX 03-5625-3546

当社は、コントラクト家具（ホテル・特老・店舗・寮・その他）を中国自社工場から直輸入で納品しております。上海に2工場を所有し、日本人技術者を駐在させ、F★★★★に尊守し、日本の求める高い品質にお応えしております。

業務範囲は、中国での家具製造のみでなく、国内における、図面打合せ～作図～工場製作～輸出入手続～納品・取付～メンテナンス（2年保証）まで一貫しております。いわば中国工場の出先機関として「ナカタケ」は存在し、お客様のニーズに幅広く、且つ、きめ細かく、ご対応しております。

最近は、弊社へのご要望範囲も拡大し、日本での購入品（生地・日本製家具・椅子の張替え・金物・照明・家電・その他）まで、ご対応する事により、家具に限定する事なく、総合的にお客様のニーズにお答えしております。

◆ 法人会員紹介－2

■ 株式会社ロックストーン

ROCKSTONEは1981年、デザイナー岩倉榮利が自身のデザインによるファニチャーブランドとして設立されました。渋谷パルコにショールームショップを構え先進的な素材使いと、日本的な感性に基づいたモダンデザインを追及したオリジナル商品は当時のインテリア・家具業界に大きなインパクトを与えました。

当社は「ROCKSTONE」ブランドを中心に「TAKAYAMA WOOD WORKS」「楽風庵」「KAMO traditional WOOD Japan」といった岩倉デザインブランドを取り扱っており、特に意匠性が高い商業施設などにおいての数多くの実績をベースに、既製品に限らず特注デザイン家具製作などにもその30年の歴史の中で培ったノウハウを活かし、お客様の様々なご要望にお応えしております。近年はテキスタイルブランドとのコラボレーションによる商品を毎年発表するなど、新たな素材への挑戦と提案も積極的に行ってています。

株式会社ロックストーン
担当 コントラクト営業部 武藤 淳
www.rockstone.co.jp
j-muto@rockstone.co.jp
〒153-0041 東京都目黒区駒場4-7-2
TEL:03-5465-0630
FAX:03-5465-0604



◆ お知らせ

■ 梶田尚令氏（享年70歳）が7月12日に逝去されました

JIPATの創設メンバー、理事、幹事を経て現評議委員で国際委員会委員で尽力をつくされました。ここに、古くから公私共々親交が深かったJIPATの創設メンバー、理事を経て、現JIPAの顧問の栗山正也氏から、メッセージをいただいています。

梶田尚令氏の急逝を悼む

2009. 07

JIPA・顧問 栗山正也

「Old□□□Guy」、□□□…ここにどのような単語を入れるべきか迷う。

単純に”イイ奴”では言い表せない何かを持っていた梶田尚令氏。

せわしい都会の時間の真っ只中で、それに追われる風もなく自分の時間で生きていた男。

そんな印象が強い。

そして、その自分流儀の時間を全うしたかのように逝ってしまった。享年70歳。

想えば、JIPATの立ち上げ時の残り少なくなった有志の1人である。有志数人が毎週仕事帰りに銀座の片隅で顔を合わせて方策を練った。どんな難題にも決して背を向けることなく、何らかの手立てを見つけてくるタフな根性の持ち主、そんな彼に随分と助けられた思いがある。そして、JIPATが立ち上がった後は決して出しゃばることなく、一歩引いて見守り役に徹していたように思える。

今、私の心の残像に2人の梶田氏が居る、先祖から受け継いだ伊勢原のミカン山や畑で鍔広の麦藁帽にタオルを首に巻いて嬉しそうに立つ姿。もう1人は、ニューヨーク仕込み（本人が自認している）のスーツ姿でバースツールに座り、片手にオンザロック…（焼酎などもっての外、スコッチorバーボンこれもニューヨーク仕込みの彼の美学）、でもどことなく土の香りを漂わせている姿、この相容れない二つの人格。その間を行き来し、我が道を生き抜いた男、梶田尚令氏。

そして、その”DNA”が2人の愛娘を経て受け継がれた証の赤子2人の鳴き声が、葬儀場の読経に唱和していたことも心に残る。

ここに氏のご冥福を心より祈りたい……合掌。